



国際ロータリー第 2790 地区
第 1 分区ロータリー情報研究会

報 告 書

日時：2010.8.27(金) 13:00～15:30

会場：東京ベイホテル東急

主催：浦安ロータリークラブ



作成：2010.8.31 浦安ロータリークラブ

■ 登録受付

- ・ 懇親昼食会(グループ討論のテーブル毎に)
- ・ テーブルリーダー 打ち合わせ

◆プログラム

- ・ 点鐘
- ・ ソング 君が代・奉仕の理想

- ・ 地区委員紹介

- ・ 開催趣旨説明 第1分区ガバナー補佐 大八木諭様

- ・ ホストクラブ会長あいさつ 大島則夫様

- ・ 職業奉仕委員長あいさつ 土屋亮平様(パストガバナー・松戸 RC)
- ・ 卓話「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」
山下清俊様(地区職業奉仕委員会クラブ研修委員/市川東 RC)
- ・
- ・ グループディスカッション A～Gグループ
- ・ グループ代表による発表

- ・ 総評 第1分区ガバナー補佐 大八木諭様

参加者人数 68名

地区より	7名
市川 RC	5名
市川東 RC	4名
市川南 RC	6名
市川シビック RC	7名
浦安ベイ RC	12名
浦安 RC	27名

■点鐘 ホストクラブ 浦安ロータリークラブ会長 大島則夫様

■ソング 「君が代」「奉仕の理想」

■出席者

●地区委員

職業奉仕委員会 委員長	土屋亮平様（松戸RC）
職業奉仕研修委員会 委員長	富一美様（成田空港南RC）
クラブ研修委員会 委員長	海寶勘一様（千葉西RC）
クラブ研修委員会 委員	山下清俊様（市川東RC）
	安蒜俊雄様（松戸東RC）
	川名光俊様（館山RC）
	堀内正一様（木更津RC）

■ロータリー情報研究会開催に当たり 主旨説明

国際ロータリー第 2790 地区

第 1 分区ガバナー補佐 大八木諭様

ロータリー情報研究会は、ここ数年は 4 ブロックに分け開催していました。今年度は、ロータリークラブの綱領を基本とし、また、職業の誇りと価値を求め、高潔な職業人の集まりであるべきことを基本とし、クラブの重要性を認識するために、分区ごとに情報研究会を開催してほしいと織田ガバナーから要請がありました。また、職業奉仕の地区委員がその考えに沿い開催する運びとなりました。

主催はガバナー補佐を排出したクラブの会長があたるということで、大島会長からの案内となっています。大島会長からは情報研究会は手作りのものにし、上手くいくといいとの話です。今回の話し合いにより我々もクラブに帰り還元し、より一層活性化されたクラブになるのではないかと考えています。

■ホストクラブ代表あいさつ

浦安ロータリークラブ会長 大島則夫

皆様の手元に議論するための参考資料を作成しました。貴重な時間を使いお集まりいただきありがとうございますので、一人一人が必ず発言していただければ嬉しいと思います。

■ごあいさつ

国際ロータリー第 2790 地区

職業奉仕委員会委員長 土屋亮平様

国際ロータリー第 2790 地区・第 1 分区ロータリー情報研究会の開催に当たりまして一言、ご挨拶を申し上げます。

織田ガバナーより、本年度のロータリー情報研究会は地区職業奉仕委員会が担当するよう指示されました。そこで地区協議会分科会の職業奉仕委員会部会の席上で、研究会開催の要請を致しましたところ、イの一番のお申し込みをいただきましたのが大島則夫会長様の浦安ロータリークラブからでございました。改めてお礼申し上げます。

また、この度の第 1 分区ロータリー情報研究会の開催に当たりましては、大八木ガバナー一補佐様には適切なるご指導を賜り、浦安ロータリークラブ会員皆様のご努力により立派に準備をしていただきましたことに対し、衷心より感謝申し上げます。

さて、本年度の織田ガバナーは 5 大奉仕部門の内、職業奉仕が最も理論的であり、倫理的であると結論づけられました。その理由から、各クラブの理事会が、R I から提示される諸々の案件につきまして、是々非々の判断を可能にさせるために、クラブの職業奉仕委員会の中にクラブ研修委員会の設置を要請されております。

特に、織田ガバナーは各分区毎に開催されますロータリー情報研究会のテーマも「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」と示され、『出席なくしてロータリーなし』と言いますが、出席の意義を再確認していただきたいとの思いと拝察いたします。

出席と申しますと、これはクラブ奉仕の分野ではないのか？ベテラン会員からは、今更、当たり前のことを議論するのか？等のご意見を聞きますが、ロータリークラブの定例会は些か異にします。例会と言っても一連のセレモニー、食事、卓話以外にロータリーの例会はもっと深遠なものが存在しなければなりません。それを本日掘み採っていただきたいのです。それこそが、職業奉仕を理解する上で大前提であるからです。

第 1 分区のロータリアンの皆様、今日の研究会は皆様の研究会であります。敢えて言わせていただければ、地区職業奉仕委員の任務は職業奉仕への道案内人に過ぎません。実り多く研究会になります事を期待いたします。

混迷する社会で生き残る道は、唯一、職業奉仕の実践『大道無難』に尽きます。

■第1分区 ロータリー情報研究会 卓話

テーマ「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」

地区職業奉仕委員会クラブ研修委員

市川東ロータリークラブ 山下 清俊様

只今ご紹介いただきました地区職業奉仕委員会クラブ研修委員の山下と申します。市川東ロータリークラブ会員で職業分類は写真工業です。クラブ入会が2007年3月ですので、まだクラブ歴3年半という新米ロータリアンです。

本日、当分区の大八木ガバナー補佐さん並びに浦安ロータリークラブ大島会長さんには「ロータリー情報研究会」を設定していただき、誠にありがとうございました。改めて厚く御礼申し上げます。

今年度、織田ガバナーからは、土屋亮平パストガバナーが主管する地区職業奉仕委員会に所属いたします、私たち地区クラブ研修委員会に対して、各分区毎に行われる「ロータリー情報研究会」にて、討議テーマ「私たちは何故週に一度ロータリーに集うのか」について、分区の皆様のお手伝いをするようにとの使命をいただきました。先ほど大八木ガバナー補佐さんがおっしゃられた通りでございます。

本日は、まだロータリー歴が浅い私がこのテーマで卓話をさせていただくことになりましたが、私自身皆様に「こうあるべきです」とか「「集う」のはこういうためです」といったようなお話ができる立場ではございません。そこで、ロータリーへの入会前後から今日までの日常を振り返って、報告させていただき、後のグループ討論のきっかけにさせていただければと思っております。

さて、このテーマですが、クラブ歴が長い方にとっては「何で今このテーマで？」と思われる方、また「週に一度」が完全に習慣になっらっしゃる方も多いたとは思いますが、「週に一度集う」というのは私にとって実に変なことでした。

私は市川東ロータリークラブに所属しております。先代である父は長らく市川東ロータリークラブにお世話になっておりまして、2006年当時当社の会長でしたが、ロータリアンのまま亡くなりました。私はその翌年にお誘いを受け、入会したのですが、入会するか否かで一番悩んだのが、「毎週出席できるかどうか」でした。

実は父が亡くなる直前、本社機能を市原市に移すことを決定し、その直後父が他界いたしました。その年の秋に市原市への移転を行ったばかりでしたので、お誘いを受けた時は自分の業務の大半は市原市にある本社／工場で行っておりました。

従いまして、週一度の例会出席で移動時間も含め約3～4時間を費やすことには、会社の業績が振るわないこともあり、かなり躊躇いたしました。

そんな中、なぜ入会を決断したのかですが、一つには当クラブの天野会員から何度となくお誘いを受け、そのお人柄に触れたこと、二つには母から、「父とロータリークラブの大勢の方々との繋がり」を聴いたことでした。

そして、三つ目には実務的な話ですが、「他クラブでメイクアップ」をすることで例会出席とみなすという制度があることでした。

この三つの理由は今思い返してみると、私自身が今「週に一度ロータリーに集うのか」の理由になっていると思っております。

一つ目の理由。天野会員は皆様ご存知でしょうが、石材業を営んでいらっしゃいます。実は父の死後、お墓を造って戴いたご縁があります。その時、親身になって私ども遺族の相談にいろいろのって戴き、とてもよいお墓を作って戴きました。そのお仕事ぶりを拝見するにつけ、また、その際お仕事上の信念をお伺いするにつれ、そういう考え方を持たれているのがロータリアンなのだと思いをいたしました。「利他」の精神で経営をされていることがよくわかりました。

私は、亡き父もそういう考えを貫いた人だと思っておりますが、そういう方々の集まる例会に出席することで自分自身が高められる期待を持ちました。

2つ目の理由。ロータリーに入ると、多くの方々と知り合えるだろうことは、社長を継いで約4年とまだまだ新米であった2007年当時、非常に貴重なものに思いました。実際入会してから、ご推薦をいただきました天野会員をはじめ、多くの方々と知り合え、お話が出来、自分自身を磨くことが少しずつではありますが、出来ているのかなと思っております。その知り合うきっかけが例会であったことは間違いありません。

「深く交わるにはお互いをよく知ることから」だと思っておりますが、私の場合、この3年半を振り返るとまだまだあまり多くの方と「深く交わってはいない」と思っております。ですが、少なくとも広く知りあえるという第一歩は始めることが出来ておりますので、ここについてはもっと長い目で見ていこうと自分自身としては思っております。

昨年度、私はクラブのプログラム委員長で多くの方のお力をお借りしました。多くの会員の方に「例会に出席してよかった」と思っていただけの内容とするという高邁な理想からはかけ離れて、とにかく例会で穴をあけてはいけないとの思いが先行し、自分で何とかしないといけないという焦りがある中で、実行力の伴わない一年でしたが、逆に会長はじめ多くの会員の方から、ご提案をいただき、実行していただき、感謝をしております。ゲストスピーカーの方、会員の方いずれも卓話ではその職業に誇りをもっていることが感じられる内容であったかと思っております。そういう卓話をお聴きすると、自らを振り返って「自分だったらどうだろうか」と考えるだけでも自分が一歩高まったように感じたものです。

例えば、つい最近白鳥PGからポリオの卓話をお聴きしました。会員個々にいろいろな啓示をいただいたことと思っておりますが、私は白鳥PGがその現場に行って自ら実行する「行動力」に感服いたしました。信念があるからこそできることですし、自分も少しでも近づきたいと思ったものでした。

こういった卓話や会員との会話からいろいろ学べるということは、自クラブの例会に限った事ではありません。他クラブへの例会でメイクアップする場合でも全く同じであると思います。

理由の3番目に挙げた「メイクアップ」の件ですが、現実的にはこのおかげで私は100%出席を保っております。例えば昨年度数えてみましたら、全部で20回のメイクアップをしておりました。第一分区内はもとより、会社近くの市原中央ロータリークラブや少し離れた八王子北ロータリークラブまで、いろいろなクラブに出席させていただきました。こういったメイクアップの多用については賛否があろうかと思いますが、私自身の現実を正直に申し上げれば、メイクアップで出席率を稼いでおります。

さて、メイクアップですが、それぞれのクラブにはそれぞれの雰囲気があり、会の進行や、会長挨拶の内容も様々ですが、どこへ伺っても必ず得るものがあります。卓話だけに限らず、意見交換や休憩時間の雑談の中から得られることも多々ありました。

八王子北ロータリークラブは平均年齢が54歳と若いクラブでした。例会は活気に満ちあふれ、いろいろな奉仕活動も活発な様子が伝わってきました。また直近では、7月16日に浦安ロータリークラブの例会に出席させていただきました。これはメイクアップというより本日の情報研究会の事前打ち合わせでお伺いしたのですが、その打合せに先立ち、海宝委員長とともに例会に出席させていただきました。大島会長が会長挨拶の中で「何のために経営しているのか」を五者択一で答える質問を会員の皆様にされていらっしゃいました。いきなり直球勝負の質問をされ、私は戸惑いましたが、浦安クラブの伝統なのでしょうが、奥深いものを感じました。

以上、メイクアップを含め、例会出席は少なくとも私にとってはとても有意義であり、入会前の迷いは吹っ切れていることを改めて皆様にお伝えいたしました。

話は変わりますが、当クラブ例会でいつも唱和している「四つのテスト」についてお話をさせていただきます。

「四つのテスト」は文面としては入会前から知っておりました。市川に本社事務所があった当時この文面が額縁に入って飾られていました。先代父からこのことについて直接教えを受けたことはありませんが、今では毎週唱和しておりますので、頭にそして心にこの「四つのテスト」が染みこんでおります。

今となっちはいつ頃からかはっきりしませんが、最近、仕事上の判断基準にこの「四つのテスト」を用いている自分に気がきました。

社内の通勤手当の支給基準について総務のリーダーと議論した時のことです。私はそれまでの支給基準から移行する新基準への移行するに当たって変化の公平性を考え、彼に私案を話しました。一方彼は新しい基準そのものが公平であるかどうかという観点で提案をしてきました。その時は私の案でいったん押し切りましたが、今一度「真にみんなに公平なのはどちらか」と改めて考え直しました。結論は彼の提案の方がよいと思いなおし、彼にその旨伝えました。

「みんなに公平か」というフレーズ、簡単なようで難しいのですが、少なくとも知らず知らずそういう観点で考えている自分そして社員はロータリーの「四つのテスト」のおかげである感謝している次第です。門前の小僧ではありませんが、これも週に一度例会に出席して「四つのテスト」を唱和しているおかげであると言えると思っております。少しずつ身につけてきているのでしょうか。

さて、「なぜ週一度ロータリーに集うのか」皆様それぞれのお考えがあるとは思いますが、今回の情報研究会では特に「職業奉仕」の観点での討論をお願いいたしたく存じます。

土屋パストガバナーは先ほど、「職業奉仕」とは自己の職業にロータリー精神を傾注させ、世の中に役立たせること。各自の職業の質の向上を図り、道德心を高揚させ、それを自己の職業に反映させること。自分の仕事に誇り、自信と責任を持つこと。とおっしゃっていました。

つまり、その実践はあくまでも、個々の職業の中で行うことになるわけです。では、毎週例会に出席することとその「実践」はどう結びつくのでしょうか？言い換えるとこれが本日の討議のテーマです。

そこで本日の討論では、「職業奉仕」について、毎回例会に出席すると何が得られるか、または例会で何を得たいのか？その為にはどんな例会がよいか？その為に自分は何をするか？何が出来るのか？などについて、意見交換をしていただきますようお願いいたします。本日の討論が皆様の日常での「職業奉仕」の実践を更に進める一助となることを期待いたしまして卓話の結びとさせていただきます。ありがとうございました。

■グループディスカッション

討論内容

A. 現状の認識

① 職業奉仕の視点で毎週の例会を見たときに、週一度の例会で集うことが、職業奉仕に役立っていますか？ など。

B. 例会運営

② 私たちは何故週一度ロータリーに集うのか？ など。

■グループごとによる発表内容

◆Aグループ（参加者9名）

発表者：白水様（浦安ベイロータリークラブ）

①の質問に対し、役に立っている5名・役に立っていない4名

<役に立っていると答えた人の意見・現状認識>

- ・ 1人であるより、多くの人と会うことはいいことである。異業種の人と会うことにより、自分の職業倫理を高めることができる。
- ・ 卓話で職業に関する話題が出てくるので、話を聞くことが自分のためになる。
- ・ 他業種の方の話を聞くことができると共に、自分の職業も相手にとって生かすことができる。

<役に立たないと答えた人の意見・現状認識>

- ・ 職業がら倫理を大切に考えているが、30分の食事と30分の勉強会が、自分には時間的に生かされているか疑問に感じる。
- ・ 週一回の例会出席で異業種の人と会うことは有意義であり、例会に出ることが役に立っていないことはないが、職業奉仕という広い意味がわからないので。
- ・ 職業奉仕の観点だけを見るのではなく、社会奉仕でもあり、自分のためでもあり、全てにおいて自分にとってプラスになることだと思っている。

<その他の意見>

- ・ 例会に出席することにより、すぐではないが自分が変わった。ロータリークラブの倫理を高めることが、自分自身の人間形成を築くことができる。これが職業を通じ奉仕につながるのではないかと思う。
- ・ 社員との関わりで努力することが職業奉仕につながる。
- ・

<例会運営について>

- ・ 卓話を常時行うことが大切である。特に会員は専門職を持っているので、会員卓話を行うことが必要だと思う。
- ・ 卓話の機会がなくなってきているので、例会に出たい雰囲気にするため、必ず会員スピーチの時間が取れるような例会にする必要がある。

◆Bグループ（参加者6名）

発表者：本司様（市川南ロータリークラブ）

①の質問に対し、役に立っている4名・役に立っていない2名

<役に立っていると答えた人の意見・現状認識>

- ・ 例会は人生道場である。出席し互いに切磋琢磨し、己を磨く機会を作る。そのためにも例会に出席する必要がある。
- ・ 職業奉仕は自らの職業を通じて社会に貢献することであり、それには職業の倫理観を高めること。そのためには例会に出席し、己を磨くための例会にすることが必要。
- ・ 例会は仕事とは違うので出席すると癒される。例会は別天地と思える。
- ・ 農業を営んでいるが、他人に食べてもらうために、食の安全を図ることが、私にとっての職業奉仕だと思っている。

<役に立たないと答えた人の意見・現状認識>

- ・ ロータリークラブの例会は、金銭やビジネス、徳になることなどのハード面は役に立たないが、ソフト面である心の問題や倫理観の向上、自己研鑽には役立つので例会に出席すること自体は役立っている。
- ・ 例会時間が短く、例会中では本音では話せない。よって職業奉仕で得るものはない。

<例会運営について>

- ・ 現状として、例会はフォーマルなプログラムが立て込んでおり、互いの情報交換する時間が限られている。1時間では十分な情報を得ることはできないので、例会の前後30分を使い、話し合いをする時間がほしい。

<その他の意見>

- ・ ロータリークラブの職業は3つの意味があると思う。1つ目は、儲けること。2つ目は、地域の職業の代表者であるという自覚を持つ。3つ目は、専門家としてプロ意識を持つことだと思っている。

◆Cグループ（参加者8名）

発表者：大島様（浦安ロータリークラブ会長）

①の質問に対し、役に立っている8名・役に立っていない0名

<現状認識として>

- ・ 異業種の方の知り合いが増える。自分の業種だけだと偏った見方や考え方になるが、異業種の人と知り合うことにより視野等が広がる
- ・ 人生の道場としての役割がある。綱領を勉強することや、四つのテストを実践することで、自分の職業は勿論、家庭や社会生活を生きていく上でも参考になる。結果として人生哲学を学ぶという場になっていると思う。
- ・ 例会の前後に集り話をする事で学びを深めていくことができる。週一回集まることで初めてロータリークラブ本来の親睦ということが達成されるのだと思う。これが職

業奉仕につながってくのではないかと思う。

<私たちは何故週一度ロータリーに集うのか、について>

- ・ 週一回集まるのは生活のリズム、習慣として、大袈裟に言うとも生きていく中でのリズムに組み込んでしまうことが可能となること。はみがきをするように億劫にならず、自然と例会出席ができるようになる。
- ・ 情報化のスピードに対応していくためにも、週一回話をする必要があるのではないか。
- ・ 1日に1時間の例会で1カ月4時間、食事を除くと約2時間であるが、この時間は量も日数も必要で、週一回集うことが大切である。
- ・ 学ぶチャンスとして、何か1つ新しいことを学ぼうという考えを持って例会に参加すると学びも大きくなる。また、週一回何か新しいことを学ぶ必要がある。
- ・ 一週間のスケジュールを考える場合、ロータリーのこと、職業奉仕のことについて週一回考える習慣にするためには、週一回集まらないといけないのではないか。

◆Dグループ（参加者8名）

発表者：竹内様（市川シビックロータリークラブ会長）

①の質問に対し、役に立っている5名・役に立っていない3名

※『役に立っていない』と答えた3名は入会して数ヶ月であり、役に立っていないというより理解できていないということ。

<役に立っていると答えた人の意見・現状認識>

- ・ 出席することにより情報が得られる。通常の職業だけだと限界がある。異業種の仕事の得られ役立っている。
- ・ 通常の生活だけでは幅広い考えが持てない。リフレッシュでき倫理観を高めることができる。
- ・ 自分の物の考え方に対し、責任を持って出席することが大切だと思う。

<四つのテストについて>

- ・ 市川東、浦安、浦安ベイロータリークラブは毎回の例会で唱和している。四つのテストが日常生活の中で仕事、会社、職場、家庭で実践できる言葉なので、四つのテストを唱和すると何となく気持ちが和らぐ。

<その他の意見>

- ・ ロータリークラブは卒業の無い学校だと思い参加している。

<私たちは何故週一度ロータリーに集うのか、について>

- ・ 新しい方から『例会はなぜ週一回なのか』と質問されたが、義務であると答えた。
- ・ 出席率の強要はしない。仕事優先で仕方がないが、メーキャップは勉強になるので大切だと思う。
- ・ 出席率を向上させるには夜の時間帯に例会を開くほうがいいと思う。市川シビックは例会終了後、毎回親睦会を開催している。

◆Eグループ（参加者8名）

発表者：佐藤様（市川シビックロータリークラブ）

①の質問に対し、役に立っている4名・役に立っていない4名

<役に立っていると答えた人の意見・現状認識>

- ・ 卓話を通じ職業奉仕の実践を聞くことができ、それが自分に役立っている。また、自分の職業を見つめ直すことができる。
- ・ 卓話がポイントである。異業種の方の経営姿勢を聞くことが役立つ。よって例会は職業奉仕に役立っている。
- ・ 異業種間という意味ではなく、会員相互間においてリーダーシップの発揮方法、問題解決の方法が参考になる。
- ・ 会員相互間の例会に対する姿勢が大変参考になる。

<役に立たないと答えた人の意見・現状認識>

- ・ 例会と職業奉仕は直接的な関係は無い。職業奉仕は個人の仕事を通じて行うものである。しかし、役に立たないと答えたが間接的には効果があると思う。なぜかと言うと、自分が仕事で壁に当たった時や悩みを抱えた時に、当事者間では話ができないが会員同士なら話をする事ができる。したがって、自分の会社を外から見る事ができる。これはロータリークラブに所属しているからこそ、これを実践することができる。
- ・ 職業奉仕と例会を直接的に結びつけることは困難である。例会はロータリーの実践の場である。例会の中で得た知識を職業に役立たせることができれば、それが例会の場ではないかと。

<私たちは何故週一度ロータリーに集うのか、について>

- ・ ロータリー活動をするために、例会はとても大事である。1カ月2カ月も空くと疎遠になってしまいます。週一回のタイミングが丁度よく活動の基礎となる。
- ・ 例会は仲間同士の分かち合いの心である。時間を作ることの大切さを学ぶことができる。そこから親睦も始まる。
- ・ 親睦と奉仕は車の両輪である。親睦なくして奉仕なし。親睦を深めることができるのが例会である。
- ・ 例会は自分が所属している社会から離れて物事を考えることができる。例会に出ることにより会員の皆さんと会うこともでき、卓話も聞くことができる。
- ・ 仕事や家庭から離れた時間を持つことが大切である。例会は休養であり親睦を通じ自分を見つめ直すことができる。
- ・ 外部の情報を聞くことができる。会員相互間の情報を聞くことにより、自己認識することができる。

◆Fグループ（参加者6名）

発表者：赤塚様（市川南ロータリークラブ会長）

①の質問に対し、役に立っている6名・役に立っていない0名

<役に立っていると答えた人の意見・現状認識>

- ・ 週一回の例会は多い少ないではなく、どれほど自分自身にプラスになっているかが問題であり大切なこと。
- ・ 週一度は決め事であり、それを承知で入会したのだから出席するのは当然である。

<その他の意見>

- ・ 異業種の人と知り合うことができ、情報交換することにより新しい知識が自分のものになる。親睦には会話が必要。輪が広がればロータリーの輪が広がることになる。
- ・ メーキャップはぜひしてもらいたい。自分たちのクラブのことだけでなく、知らない知識が入ってくる。
- ・ 卓話は異業種の方の話を聞けるので勉強することができ、また興味もあり、新鮮なので必要である。
- ・ 色々な人がいるから中に入って見てみると入会したが、今では自分の行動を自信を持って見てもらっている。これからは新しい人を誘えるよう勉強していきたい。

<まとめとして>

- ・ 卓話や異業種の方との交流により、今まで気が付かなかった社会を知ることができる。
- ・ 出席は会員の義務であり会員の権利である。理想を追うと新しい人が入ってきにくい。それよりも現実を直視し胸襟を開き話し合うことにより、一番身近な自分自身の職業奉仕に必ず役立てることにつながる。

<効果的な例会運営について>

- ・ プログラムを充実させること。それにより出席率も上がり、互いの情報交換に役立つのではないかと。

◆Gグループ（参加者8名）

発表者：斎藤様（浦安ロータリークラブ）

①の質問に対し、役に立っている8名・役に立っていない0名

<役に立っていると答えた人の意見・現状認識>

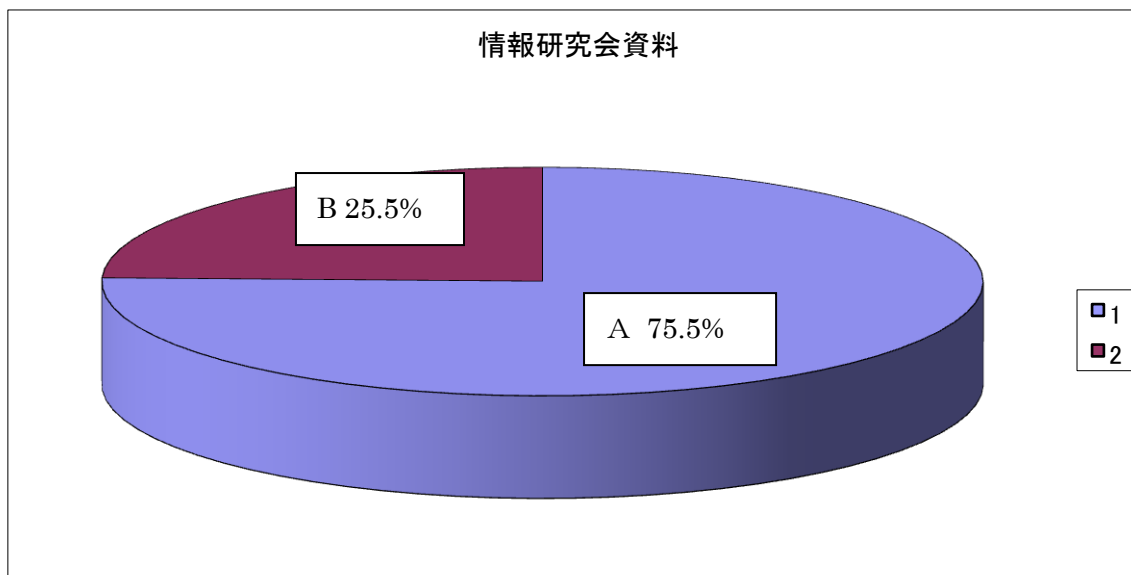
- ・ 例会に出席すること、また例会だけでなく前後の時間も大切である。
- ・ 例会は職業奉仕の反省のチャンスがある。情報を得られ、会員との交流ができる。異業種の人が多くいるので情報を得られることがプラスである。
- ・ 輪が広がり知識を吸収し職業奉仕に役立っている。
- ・ 市川東ロータリークラブの卓話は職業について話してもらっている。これが自分の職業にプラスになっている。

- ・ 自分の職業の常識がロータリークラブでは通用しない場合がある。一般常識を得ることができる。
- ・ 井の中の蛙ではなく、自分も成長できる。

◆参考資料

ディスカッション参加者：53名

A：役にたっていると答えた人	B：役に立っていないと答えた人
40名	13名



■総評

国際ロータリー第 2790 地区

第 1 分区ガバナー補佐 大八木諭様

今日は十分な時間を使い話し合いができたかと思います。普段はお会いしてもあいさつ程度で終わってしまいますが、時にはこのような機会を持つのもいいことではないでしょうか。

海寶委員長様からロータリーは『国際奉仕、クラブ奉仕、社会奉仕、これらはすべて奉仕を与えることですが、職業奉仕だけは、自分の成長になることが含まれています』との話がありました。四大奉仕の中でも自分のためになること、人のためになることが含まれている職業奉仕は、やはりとても大事なのだと感じました。

ロータリークラブは、お客様のため、周りの人のためになることをするため、高潔な人材であるロータリアンを育てるグループではないかと感じています。

今回は皆さんのお話を聞き楽しく思いましたので、ぜひ今後もこのような機会を持てればと思っています。

以上

2010'11 年度「ロータリー情報研究会」開催趣意書

10'11 年度地区職業奉仕委員会

クラブ研修委員長 海寶勘一(千葉西RC)

1・織田ガバナーの理念である、「ロータリーの綱領」を基本として、職業に誇りと価値を求めて、高潔な職業人の集まりであるべきクラブ例会の重要性を認識するために、14分区ごとに《ロータリー情報研究会》を開催企画してみました。

《ロータリー情報研究会》ではクラブ例会が、和気藹々と学び愛、感化し愛、敬愛できる場であることを、改めて認識できるように、地区委員卓話を通して、グループ討議を通して《職業人として、毎例会出席する意義と重要性》を熱く語り合いできることを期待しております。

1・クラブでの5大奉仕活動ですが、形骸化されている社会奉仕と国際奉仕活動が、前年踏襲型の新鮮味に欠ける、奉仕活動に低迷しているように見受けられます。

織田ガバナー年度の最枢要事業である、職業奉仕活動の理念を啓蒙することから、クラブ運営の要となるような委員会活動に結び付けられるように、高潔な職業人として、職業奉仕理念の高揚が図れることを期待しております。

1・クラブ例会も慣習化されて、とかく親睦活動に傾注されていますが、日本のロータリーの創始者である米山梅吉翁の言葉にあります、「毎週のクラブ例会は、人生最高の修練の場である」ことを目指して、個々の会員が優越感や期待感をもって、切磋琢磨しあえる生き活きと例会に出席できるように、委員会活動と卓話を通して伝えてみたいものです。

1・慣習化されてしまっているクラブ例会の意義を、地区委員卓話やグループ討議を通して、ロータリーの真髄の喜びを味わうことが、《ロータリー情報研究会》のグループ討議である、グループ・ディスカッションの中から享受してほしく思います。

1・《ロータリー情報研究会》の運営なのですが、ガバナー補佐の皆様のご支援を仰ぎながら、主宰がガバナー補佐輩出のホスト・クラブ会長として、手作りの情報研究会運営がされるなかからは、地区委員が卓話や研修リーダーになることで、地区委員自身のボトムアップが図れますし、委員出身クラブにも還元できることから、クラブ例会に一層の活性化が浸透できることを期待しております。

尚、卓話やグループ討議の際には、地区委員は決して指導者ではありませんので、皆様との語り合いの中から、ロータリー情報の伝達とか、質問への後日解答等のお手伝いできるように、あくまでも仲間の一人としてアドバイザー役に徹することをご理解願います。